岡山県病院協会　設立50周年

地域医療に貢献

〝顔の見える関係〟築く

岡山県病院協会
会長 小出 尚志氏

こいで・ひさし　大阪医科大学卒。同大勤務などを経て1996年倉敷紀念病院院長、2012年同理事長。全国公私病院連盟副会長。09年から現職。

岡山県病院協会
顧問 土井 章弘氏

どい・あきひろ　鳥取大学医学部卒。岡山大学講師など経て1998年から岡山旭東病院院長。岡山県中小企業家同友会常任相談役。前岡山県病院協会長。

岡山県病院協会
特別参与 岩本 一寿氏

いわもと・かずとし　日本大学卒。岡山県済生会支部業務担当理事。恩賜財団済生会常任理事（本部）、岡山県病院協会事務長部会長など歴任。

中小病院の資源を活用

公開講座など社会貢献も

（右面から続く）

森田　IT化とDPC（診断群分類別包括評価）化によって、どこの病院で何が行われているか情報がオープンになり、全ての病院のボーダーがなくなる。つまり、世界のグローバル化と同じで、大学病院内だけで頑張るのは不可能であり、各病院が役割を分担しなければならない。医療経営上、医療資源の共有化も求められています。

土井　大きな変化の一つに日本医療機能評価機構の第三者評価があります。当協会は早くから評価を受けるための研修を毎年行っており、昨年の岡山県の認定病院数は64病院。全体の36・7％と全国上位です。

医療情報ネットワーク

―「医療情報ネットワーク」の構築を目指し、県が立ち上げた「岡山県医療情報システム推進検討委員会」の事務局を県病院協会が委託されています。

小出　医療情報ネットワークの構築は、電子カルテを中心とした医療情報を複数の医療機関で共有する〝シームレスな医療連携〟を促進する強力なツールになると期待されています。国の地域医療再生基金により、全国各地でネットワークが立ち上がりつつありますが、岡山の場合は、県全域の基幹病院と地域の診療所・病院をつなぐ広域連携型で、電子カルテの種類を選ばない、マルチベンダー方式というのが大きな特徴。本年度内には稼働する見込みです。

―課題は何でしょう。

小出　このネットワークは2014年から独立運営しなければならず、いかにすそ野を広げていけるかが重要です。岡山県と岡山県病院協会、岡山県医師会の3者が手をつないで立ち上げる形なので、スタートは病院、診療所からですが、次のテーマとして薬局、訪問看護、介護、もっと言えば「地域包括ケアシステム」へ参加する皆さんがネットワークに加わると、本当に地域医療に役立つものになります。

森田　この先の10年を見据えた場合、電子カルテの共有を進めないと、もう病院が生き残れないというぐらいに考えています。大学病院を含めて病院を再編していく過程で、カルテが別々だとうまく再編できないし、機能を果たしません。

丹羽　4、5年もすれば、ほとんどの医院が電子カルテになるでしょうから、情報共有できる患者数が急速に増えます。郡市地区医師会を通じ、一人ずつネットワークに加入してもらう努力をしていこうと思っています。ネットワークが機能すれば、患者さんにとっても医療機関にとっても時間的、経済的に有効で、大きな福音をもたらします。

佐々木　国が病診連携・病病連携を評価する新たな制度設計をする中で、どの程度実態があるかが問題になってくると思います。顔の見えるネットワークに加え、岡山でカルテ情報の共有化事業に取り組んでいることは、本当にモデル的であり、先取りしたものです。

期待

―今後、岡山県病院協会に期待することは。

佐々木　病院経営をいろいろな病院が一緒になって考えていくということで、一体感、連帯感のある取り組みをしておられる。全国的にも誇るべき素晴らしいことですので、ぜひ維持発展していただきたい。

森田　これまで県病院協会の中で大学病院がもっと役割を担えたのではないかという反省があります。そういう意味で大学病院を仲間に入れてもらい、頑張らせてほしい。

丹羽　国が在宅医療、在宅介護に力を入れているので、病院も診療所も含めて役割分担していかなければならない。これからも県医師会は県病院協会と密接に連携し、二人三脚で地域医療を守っていくことが最大の使命だと思っています。IT化、医療情報ネットワークについてもさらに連携していきます。

小出　今までの岡山県病院協会は、個々の病院の質を上げることによって、地域に貢献していくというのが一つの流れでしたが、それとは別に、在宅での医療、介護サービスを連携して提供する「地域包括ケア」をいかに支援していくか。その部分で県病院協会の10支部が力を発揮できるよう、サポートしていきます。

土井　病院や福祉施設は多くの雇用を生み出すので、大きな一つの産業としての見方も必要でしょう。また県内病院の84％を占める中小病院の活性化が地域医療・福祉の質を高めます。医療は社会的共通資本であり、今後も公私が大小を問わず協力し、「和」の心をもって最善の医療・福祉サービスを提供していただきたいと思います。

岩本　社会貢献として、公開講座を通じて病院の中の見える化を図り、より住民と一緒になって病院と医療を共に支えていく姿勢を示す必要があります。協会独自の広報活動の充実、医師会だけでなく看護協会、薬剤師会など各種専門医療職団体との連携、予防医学の啓発も大切です。

―森田学長は米国ピッツバーグを例に、医療を核にした岡山の街づくりを提唱されています。

森田　岡山県ほど医療が整備され、均一な医療レベルを提供している所はない。災害も少ない。岡山県、岡山市を「医療都市」「教育都市」にしたいという夢をずっと持っています。

小出　医療や福祉、介護は都市づくり、まちおこしの一つの重要なテーマになります。ぜひそういう方向でみんなが協働できればいいですね。

企画・制作／山陽新聞社広告本部